

宇都宮都市交通戦略 施策事業評価表 II

1. 施策の目的と目標

□目標とする交通環境	II. まちづくりに資する交通環境を整備する	□目的	自動車依存型社会により拡散した都市となった宇都宮市を改善し、都心部を中心とした市街地の魅力を向上し、人・都市機能の集約に資する都市の交通基盤となる公共交通の充実・強化を目指す。			
□施策の体系	1 市街化区域の公共交通空白（不便）地域を解消する 2 トランジット施設に、地域の拠点性を高める機能を整備する 3 中心市街地の回遊性を高める		4 自転車を快適に利用できる環境を整備する 5 車や公共交通等が円滑に通行できる道路を整備する			
□目標指標	指標名	基準数値 (a) (基準年)	数値 (b) (評価年)	目標数値 (c) (目標年)	進捗状況 (%) 基準年(a/c) ⇒ 評価年 (b/c)	進捗評価
	1) 公共交通夜間人口カバー率（市街化区域）	75.0% (H20年度)	88.8% (H28年度)	100% (H30年)	75.0% ⇒ 88.8%	着実に増加
	2) 中心市街地通行量（休日）	97,306人 (H21年)	92,636人 (H29年)	130,000人 (H31年)	74.9% ⇒ 71.3%	H27年以降 横ばい
	3) レンタサイクル利用者数	31,000人 (H21年度)	45,184人 (H29年度)	41,000人 (H27年度) ※	75.6% ⇒ 110.2%	目標を達成

※ 「宇都宮市自転車のまち推進計画前期計画」の目標数値

2. 短期的施策事業における重点施策事業の実施状況と評価

(凡例) ◎:予定どおりに実施 ○:おおむね予定どおりに実施（一部未完了） △:一部未実施

施策事業名	事業主体	H28年度 実施状況	H29年度 当初予定	H29年度 実施状況	H29年度 評価	H30年度 当初予定
II-1-① 幹線バスの運行サービスの充実	バス事業者 宇都宮市	○益子線のベルモール経由の運行開始 ○今宮線の運行継続(自主運行への移行)【再掲】 ○JR宇都宮駅東側におけるLRTの導入と合わせたバスネットワーク再編の検討【再掲】 →運行ルート、運行本数等の検討、バスネットワーク再編案の作成	○日光線・今市線の篠井ニュータウンへのルート変更(関東) ○JR宇都宮駅東側におけるLRTの導入と合わせたバスネットワーク再編の検討【再掲】 →バス事業者との協議・調整	○日光線・今市線の一部の篠井ニュータウンへのルート変更(関東)【再掲】 ○今宮線の運行内容の見直し(関東)【再掲】 ○LRT導入に合わせたバスネットワーク再編の検討【再掲】 →JR宇都宮駅東側におけるバス路線再編素案の作成 →駅西側におけるネットワークイメージの作成 →市内全39地区住民・周辺市町・LRT沿線企業への説明	◎ ◆既存路線である日光線・今市線の一部を篠井ニュータウン経由にルート変更するとともに、H27年度の社会実験路線である今宮線について、JR雀宮駅までの延伸やオフピーク時における大通りの運行等の見直し(H30.4月変更)を行うなど、バス路線の充実を図っている。 ◆バス路線再編の検討の中で、地域住民の意見も伺いながら、幹線バスの維持・拡充の検討を進めている。 ◇市街化区域においても高齢化の進展に伴い、日常生活の移手段の充実に対するニーズが高まっていることから、道路状況や公共交通の運行状況などの地域特性に応じたバス路線の整備や生活交通の確保が必要である。	○今宮線の雀宮駅延伸等の実施(4月)(関東)【再掲】 ○柳田街道運行路線一部便のルート変更の検討(JRバス)【再掲】 ○LRTの導入と合わせたバスネットワーク再編の検討(駅東側・駅西側)【再掲】 →バス事業者との協議・調整
II-1-② 循環バス(ミニバス)の運行	バス事業者 宇都宮市	○循環バスの運行継続(既存路線) 【関東自動車】 市内循環線「きぶな」、戸祭台循環線、宇大循環線、平松本町線、今宮線 【東野交通】 越戸・ベルモール循環線、花園・卸団地線、市役所・卸団地循環線の運行 ○JR宇都宮駅東側におけるLRTの導入と合わせたバスネットワーク再編の検討【再掲】 →運行ルート、運行本数等の検討、バスネットワーク再編案の作成	○既存の循環バスの運行継続 ○JR宇都宮駅東側におけるLRTの導入と合わせたバスネットワーク再編の検討【再掲】 →バス事業者との協議・調整	○循環バスの運行継続(既存路線) 【関東自動車】 市内循環線「きぶな」、戸祭台循環線、宇大循環線、今宮線 【東野交通】 越戸・ベルモール循環線、花園・卸団地線、平松本町線(関東自動車から移管) ○LRT導入に合わせたバスネットワーク再編の検討【再掲】 →JR宇都宮駅東側におけるバス路線再編素案の作成 →駅西側におけるネットワークイメージの作成 →市内全39地区住民・周辺市町・LRT沿線企業への説明	◎ ◆「今宮線」の運行内容を見直すなど利便性の向上を図りながら、既存の循環バスの運行を継続し、移手段の維持・存続を図っている。 ◇都心循環バス「きぶな」については、中心市街地における歩行者通行量が低迷する中、市民から双方向運行を望む声が多いことから、多様な移動ニーズに対応できるよう運行内容を見直す必要がある。	○既存の循環バスの運行継続 ○「今宮線」のJR雀宮駅延伸等の実施(4月～)【再掲】※循環運行終了 ○LRTの導入と合わせたバスネットワーク再編の検討(駅東側・駅西側)【再掲】 →バス事業者との協議・調整
II-3-② 都心部道路景観整備事業	宇都宮市	○市道3号線(ユニオン通り) →地元勉強会の実施(2回) →電線共同溝築造工事(72m) →引込管路等設備工事	○市道3号線(ユニオン通り) →引込管路等設備工事 →道路整備工事	○市道3号線(ユニオン通り) →電線共同溝築造(引込管路等)工事 →引込管路等設備工事 →道路照明工事	◎ ◆ユニオン通りにおいて、電線類の地中化やこれに伴う照明工事を行うなど、都心部道路の安全・快適な歩行空間の創出や良好な道路景観の形成の取組を計画的に推進している。 ◇ユニオン通りの道路景観整備事業のH31年度の完成を目指し、引き続き、電線類地中化工事等に必要に取り組む必要がある。	○市道3号線(ユニオン通り) →ケーブル入溝工事 →道路整備工事

施策事業名	事業主体	H28年度 実施状況	H29年度 当初予定	H29年度 実施状況	H29年度 評価	H30年度 当初予定
Ⅱ-3-④ レンタサイクルの充実	宇都宮市	○駐輪場レンタサイクル →レンタサイクルの実施(市営) (H27:7箇所→H28:8箇所) →配備台数の随時調整 (H27:165台→H28:177台) →他都市の取組事例の調査 ○観光レンタサイクル →宿泊施設による自主運営の継続	○駐輪場レンタサイクル →レンタサイクルの実施(8箇所) →配備台数の随時調整 →他都市の先進事例の調査・検討	○駐輪場レンタサイクル →レンタサイクルの実施(8箇所) →配備台数の随時調整(177台) →電動アシスト自転車のバッテリー更新 (29台分/55台分) →他都市の取組事例の調査	◎ ◆駐輪場レンタサイクルについて、各駐輪場の利用状況に応じた配置台数の調整や電動アシスト自転車のバッテリー更新などの取組により、利用者数は増加となる見込みであり、中心市街地の回遊性の向上に寄与している。(H28:45,106人⇒H29見込み:46,828人) ◇引き続き配備台数の適切な調整を実施しながらレンタサイクル事業に取り組むとともに、更なる利便性向上を図るための手法についても検討する必要がある。	○駐輪場レンタサイクル →レンタサイクルの実施(8箇所) →配備台数の随時調整 →電動アシスト自転車のバッテリー更新 →情報通信技術を活用したコミュニティサイクルのあり方検討
Ⅱ-3-⑤ モビリティセンターの整備	宇都宮市	○宮サイクルステーションの運営 →レンタルバイクの実施 (H27.4-12月:948人 ⇒H28.4-12月:705人) →来館者数 (H27.4-12月:4,326人 ⇒H28.4-12月:4,711人)	○宮サイクルステーションの運営	○宮サイクルステーションの運営 →レンタルバイクの実施 (H28.4-12月:705人 ⇒H29.4-12月:658人) →来館者数 (H28.4-12月:4,711人 ⇒H29.4-12月:4,398人)	◎ ◆H27年度から継続して指定管理者によるセミナーなどを実施しているが、レンタルバイク利用者は減少傾向にある。 ◇指定管理者と連携し利用者のニーズを把握しながら、ジャパンカップサイクルロードレースやクリテリウムシンボルとして、利用促進に向けたサービス内容について検討する必要がある。	○宮サイクルステーションの運営
Ⅱ-4-③ 自転車道の整備	国 栃木県 宇都宮市	○自転車走行空間の整備 (矢羽根の設置) →市道298号線など3路線(1.3km) ○サイクリングロードの整備 →鬼怒川サイクリングロード周回コース (8.0km)	○自転車走行空間の整備 →柳田街道ほか(4.5km) ○サイクリングロードの整備 →山田川サイクリングロード(0.3km)	○自転車走行空間の整備 (自転車専用通行帯・矢羽根) →鶴田宝木線など16路線(18.1km) ○サイクリングロードの整備 →山田川サイクリングロード(2.0km)	◎ ◆国庫補助金を活用しながら、自転車走行空間やサイクリングロードを当初の計画どおり整備することで、安全で快適な自転車走行空間の確保が着実に進んでいる。 ◇自転車走行空間の整備により自転車事故は減少しているものの、事故割合が高い交差点部の整備を推進するとともに、自転車利用に対する市民の意識啓発を図る必要がある。	○自転車走行空間の整備 →和尚塚通りほか(6.0km) ○サイクリングロードの整備 →山田川サイクリングロード(0.8km)

3. 都市交通戦略に計上されていない主な施策事業の実施状況と評価

(凡例) ◎:予定どおりに実施 ○:おおむね予定どおりに実施(一部未完了) △:一部未実施

施策事業名	事業主体	H28年度 実施状況	H29年度 当初予定	H29年度 実施状況	H29年度 評価	H30年度 当初予定
トータルデザインの推進	宇都宮市	○トータルデザインの推進 →LRTデザイン部会の開催 →LRT車両や各種施設、設備などの利用者が接する全ての要素についての統一したコンセプトの検討、公表 →車両外観、停留場、サイン等のデザインの検討	○トータルデザインの推進 →LRTデザイン部会の開催 →LRT車両や各種施設、設備などのデザインの検討 →トータルデザイン事業への市民参画の推進	○トータルデザインの推進 →LRTデザイン部会の開催 →車両選定委員会の開催 →車両外観や停留場、車両基地、トランジットセンター等のデザインの検討	◎ ◆車両メーカーを選定し車両デザインに着手するとともに、LRTデザイン部会における検討を通して、停留場等のデザイン案を作成するなど、まちづくりに資するデザインの検討を進めている。 ◇引き続き、車両や各種施設のデザインの詳細について検討を進めるとともに、車両や停留場デザインへの市民参画に向けた検討を進める必要がある。	○トータルデザインの推進 →LRTデザイン部会の開催 →車両や各種施設、設備などのデザインの詳細検討、車両デザインの決定 →車両・停留場デザインへの市民参画の推進

都市交通戦略に計上されていない施策事業であるが、近年、進捗している取組であるため掲載している。このため、進捗評価の対象外とする。

3. 施策の評価

<Ⅱ-1>市街化区域の公共交通空白・不便地域の解消

【成果】

- ・社会実験やバス事業者によるバス路線の新設・拡充，都心部における循環バスの運行，市街化区域における延べ20箇所（市全域では延べ30か所）のサイクルアンドライド用駐輪場の整備により，市街化区域における公共交通の利用圏域が拡大している。
- ・LRTの導入と合わせた駅東側の「バス路線再編素案」や駅西側の「ネットワークイメージ」を取りまとめ，交通事業者との検討を進めるなど，幹線バスや循環バスの充実に向けた取組を着実に進めている。

【課題】

- ・市街化区域においても高齢化の進展に伴い，通院や買い物などの日常生活の移動手段の充実に対するニーズが高まっていることから，道路状況や公共交通の運行状況などの地域特性に応じて，バス路線の整備や生活交通の確保が必要である。

<Ⅱ-2>トランジット施設における地域の拠点性を高める機能の整備

【成果】

- ・宇都宮駅におけるバス総合案内システムの増設や有人案内の実施，西口バス乗り場へのバス接近表示機の設置，雀宮駅や岡本駅の東西の駅前広場の整備などにより，鉄道駅の交通結節機能の強化が図られている。
- ・「JR宇都宮駅東口地区整備方針」を策定し，LRTと一体となった土地利用を図りながら宇都宮駅東口地区における高次都市機能の集積の具現化に向けた取組を着実に進めている。
- ・LRTのトランジットセンターについて，交通結節機能に加え，賑わいや交流のための広場など拠点性の向上に向けた検討を着実に進めている。

【課題】

- ・本市が目指す階層性のある公共交通ネットワークの構築に当たっては，輸送力と定時性に優れた鉄軌道へのアクセスの強化が重要であることから，鉄道駅やトランジットセンターについて，LRTの整備やバス路線の再編と整合を図りながら，周辺のまちづくりと一体となった交通環境の整備を進める必要がある。

<Ⅱ-3>中心市街地の回遊性の向上

【成果】

- ・オリオン通りにおける安全な自転車通行のための路面表示やユニオン通りの景観整備などにより，中心市街地における歩行者にやさしい道路づくりが着実に進められている。
- ・都心循環バス「きぶな」の運行やレンタサイクル，宮サイクルステーションにおけるレンタルバイクの実施などにより，買い物や観光の回遊性の向上に向け取り組んでいる。

【課題】

- ・都心循環バス「きぶな」については，中心市街地における歩行者通行量が低迷する中，市民から双方向運行を望む声が多いことから，多様な移動ニーズに対応できるよう運行内容を見直す必要がある。
- ・宮サイクルステーションについては，ジャパンカップサイクルロードレースやクリテリウムのシンボルとして，更なるサービス向上に取り組む必要がある。

4. 施策の方針

<Ⅱ-1>市街化区域の公共交通空白・不便地域の解消

- ・LRTやバス，地域内交通の適切な役割分担に基づき，バス路線再編等による幹線・支線バスの充実と合わせ，市街地部におけるそれぞれの地域特性を踏まえた生活交通の導入に向けて，地域と行政が一体となって取り組む。
- ・LRTのトランジットセンターや停留場付近，バス停付近における民間施設の駐輪場の活用や道路改良事業と合わせてサイクルアンドライド用駐輪場の整備を進め，公共交通の利用圏域の拡大を図る。

<Ⅱ-2>トランジット施設における地域の拠点性を高める機能の整備

- ・岡本駅の東口駅前広場の平成30年度の整備完了を目指す。
- ・LRTの整備と連携しながら宇都宮駅東口地区の整備に向けた取組を進めるとともに，LRTの駅西側整備やバス再編の検討と連携を図りながら，バスや自家用車，徒歩の円滑な交通にも配慮したJR宇都宮駅西口周辺地区の整備に取り組む。
- ・LRTの整備やバス路線の再編と合わせ，多様な交通手段の結節点であるトランジットセンターの整備やLRT停留場・バス停付近への駐輪場の整備を進めるとともに電子媒体を活用した周知に取り組む。

<Ⅱ-3>中心市街地の回遊性の向上

- ・引き続きユニオン通りの景観整備に取り組む。
- ・貸出場所や利用時間の拡大など，レンタサイクルのサービス向上に取り組む。
- ・宇都宮駅西側のLRT整備やバス再編検討などと連携を図りながら，宇都宮駅西口周辺地区の整備に取り組む。
- ・都心循環バス「きぶな」の双方向運行の実現に向けて，交通事業者と検討を進める。
- ・指定管理者と連携し，利用者のニーズを把握しながら，レンタルバイクの利用促進や魅力あるセミナーの開催など，宮サイクルステーションのサービス向上に取り組む。

<Ⅱ-4>自転車を利用できる環境の整備

〔成果〕

- ・自転車専用通行帯や矢羽根などによる延べ40kmの自転車走行空間の整備や延べ30か所におけるサイクルアンドライド用駐輪場の整備により、自転車利用の利便性・快適性が向上するとともに、自転車事故の減少が図られた。
- ・レンタサイクルや宮サイクルステーションにおけるレンタルバイクの実施などにより、自転車を利用しやすい環境整備が図られている。

〔課題〕

- ・自転車事故は減少しているものの、交差点部における事故の発生割合が高いことから、自転車走行空間の連続性の確保を図りながら交差点部の整備を推進するとともに、自転車利用に対する市民意識の啓発に取り組む必要がある。

<Ⅱ-5>車や公共交通等が円滑に通行できる道路の整備

〔成果〕

- ・土地区画整理事業による道路整備については、着実に整備を進めており、安全で快適な交通環境を有した市街地の形成が図られている。

〔課題〕

- ・車や公共交通のほか、歩行者や自転車利用者が安全かつ快適に通行できるよう、引き続き道路整備に取り組む必要がある。

<Ⅱ-4>自転車を利用できる環境の整備

- ・交差点部へ連続する矢羽根の整備や自転車歩行者道と車道との段差解消、自転車専用通行帯の整備など自転車利用の安全性・快適性の向上に取り組むとともに、交通安全教室の充実などにより自転車利用のマナー向上やルールの周知に取り組む。

<Ⅱ-5>車や公共交通等が円滑に通行できる道路の整備

- ・引き続き、土地区画整理事業や都市計画事業などにより、幹線道路の整備や生活道路の安全性向上に向けた取組を進める。

※ 施策の評価及び施策の方針については、本資料及び別紙1-4「短期的施策事業個票」に基づき作成